

五月一七日、米帝のミサイル巡洋艦スターク号がイラク機にエグゼミサイルをうちこまれ、三七人の米兵が死んだ。もし、うちこんだのがイランであつたら、米帝は宣戦布告をしたかもしだいし、むざむざとうちこまれることもなかつたろう。米帝はそれでもなお、「ガルフにおける安全航行を確保する」「石油の流れを保証する」として、軍事力を増強し、緊張をあおつてゐる。

他方、レバノンでは、パレスチナ人の武装存在を認めた「カイロ協定」をレバノン議会が破棄し、六月一日には、「カイロ協定」締結当时（六年）の首相でもあった現首相カラミが暗殺された。また、イスラエル軍は、南部レバノンでのレジスタンスの高揚に対し、「セキュリティゾーン」を越えて、南レバノンに対する軍事的圧力と弾圧を強化している。世界レベルでは、米ソの緊張緩和

一 ヨーロッパの緊張緩和とガルフの緊張悪化

西欧帝国主義諸国の中には、西欧の利害が無視されていくのではないかという危惧さえ生まれているほどで、ソ連ゴルバチョフ政権は、欧洲共同体の短距離ミサイル全廃提案をうち出した。このいわゆる「ゼロ・ゼロオプション」（または、「ダブル・ゼロ・オプション」）提案という

ガルフの緊張を高める米帝の狙い

一九八七年六月一〇日



第 25 号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03) 291-5533
編集 J.R.A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

目次	
ガルフの緊張を高める米帝の狙い	1
スターク号ミサイル被弾問題へのアラブ紙とソ連の反応 (資料①)	7
ガルフでの治安維持の危険性(資料②)	7
アルジェリアでのPNC採択文書(資料③)	9
ハシナ・シニオラ氏のエルサレム市議会選挙出馬提案と 反応(資料④)	12
イスラエル経済の実状(資料⑤)	13
レバノン内戦悪化とレバノン国軍の分解(資料⑥)	14
激動の中東下キュメント(1987年5月4日～6月9日)	14

ミ帝のこの動きには完全に同調しない。その結果が、ベニス・サミットに、はつきりと出た。ミ帝が一人で騒ぎ立て、火事をおこし、自同盟諸国からも、自国民からも、非難されているのである。

二 カラハ首相暗殺と、レバノンの内戦

カラミ首相暗殺に到る前の五月二日、レバノン国会は、レバノンにおけるパレスチナ人の武装存在を認めめた「カイロ協定」破棄、米帝仲介の「五・一七合意」破棄を決議している。パレスチナ武装部隊が、シリア軍の西ベイルート介入と同時に南レバノンに集結し、対イスラエル戦に集中している矢先、そして、先月のアルジエにおけるPNCにおいて改めて「カイロ協定」遵守を決議した矢先、さらには、イスラエルー「S LA」がレジスタンスの高揚に耐えかねて軍事力増強、新たな侵略の口実を捜しているという時に、この決議があった。

月三一日）、ハジビツラーは、二五〇人の部隊で、「セキュリティゾーン」内のイスラエル、傀儡「SLA」軍を攻撃した。イスラエルの発表によると、レジスタンス側は戦死者八名を出したものの、「SLA」五人を殺し、「SLA」二二人、イスラエル兵六人を負傷させた。この攻撃は、サイダ南方二〇キロの「セキュリティゾーン」の端にあるジャバル・サフィ付近でかけられた。イスラエルは、付近の村をヘリコプター、砲兵隊で報復攻撃し、生後六ヶ月の赤ん坊を殺し、二〇人もの村人を負傷させている。同時に、イスラエルは、「イスラエル国境」から一九〇キロ北にあたるジャジーン（キリスト教徒の町）にまで戦車隊を進攻させた。二年前の「部分撤退」時に「セキュリティゾーン」を設置して以来はじめてジャジーンまで侵略してきた。

シャミルは「これは政策変更ではない。ただ、北部国境の安全を保つための必要措置である」としている。現在、南レバノンでは、レジスタンスが攻勢に出ており、とくにハジビラーレは攻撃的に展開している。パ

レスチナ勢力も、アルジェでのPNC開催以前から、そして以降はとくに、南部レバノン、さらにはイスラエル北部への潜入攻撃作戦を開催している。レバノンの農民がイスラエルの占領、事実上の併合に敵対してレジスタンス活動を展開することは、イスラエルのレバノン支配を追いつめようとしている。

一方、イスラエルは、PLOの物質力の解体、破壊をもくろんでいる。国際会議にむけて、PLOの存在、物質力を叩き、パレスチナ・キヤンプを武装解除せんとしている。それゆえ、スールのラシャディエ・キヤンプ、サイダのアイネ・ヘルエ、ミエ・ミー両キャンプ攻撃を重点的に行ってきた。今年に入つてから、の南部爆撃はすでに一〇回以上だが、うち三分の二はパレスチナ・キヤンプに対するものであった。

しかし、イスラエルが南部レバノンへの報復攻撃を行えば行うほど、シーア派農民をハジビッラーに追いやることになっている。そして、イスラエルに対する聖戦を呼びかけているイランが、このハジビッラーを支援しているのである。人海戦術的な作戦でイスラエルとその傀儡「S LA」を攻撃するハジビッラーへの

「いろいろなと、しかもむざむざと被弾した」という米軍のミサイル防衛体制の不正確さが、この「まさか」の内容である。

このスターク号被弾は、米国務次官マーフィーが五月七日から開始したガルフ諸国六カ国、イラク、エジプト歴訪を終えて帰国した数時間後におこった。マーフィーは、「ガルフ戦争は、米国の国益を損ねている」、「自由航行保証のために、米国は何でもする」と表明して回っていたのである。そして、クウェートでは米国旗の下にクウェート船を防衛するだろうとも発言している。他方で米国務長官シュルツは、「イランは国連のガルフ戦争停戦決議をうけ入れるか、そもそも、制裁措置に直面するかのいずれかを選択せねばな

である。タンカ一攻撃は、もともと陸上戦で守勢に立たされたイラクが口火を切ったものであり、イランがバスラを脅かすにおよんで、さらに激化してきたものである。安全航行確保の問題についていうなら、イランに対する制裁の問題がとり扱われるべきであつたろう。

今の段階で、あえて「安全航行」確保を問題にするのも、米帝レーガン政権が、帝国主義の権益防衛とともに、イラン・ゲート問題で失った威信回復へむけて、反イラン・キャンペーンを展開する狙いがあるからである。この反イラン・キャンペーンには、西欧帝国主義諸国をも動員して、反イラン経済、軍事包囲網を形成せんとしているのである。

ところが、GCCは、すでに昨年

へ派遣した。そして「イランとの協議なしには、いかなるガルフ問題の解決もない」と表明した。U A E はこうしたオマーンの動きを支持することを表明している。もつとも戦場に近く、イラクへの武器物資補給を支えているクウェートは、ソ連、米帝、中国に対し、船舶の防衛を訴えている。これは、大国の介入によって、イランを牽制せんとする意図である。U A E もオマーンも、イランと交渉する道を選んでいるのであるマーフィーの外交展開も、ここではマイナスの結果を生んでいた。

そして、同日、スターク号ミサイルがうちこまれたのであつた。これは、米帝の失態以外の何物でもない（資料参照）。自ら、ガルフでの海軍力を増強したもの、味方のイラ

がガルフでの影響力を拡大するのを阻止する」として、ガルフ配備米艦隊を九隻から一一隻に増強しようとしている。それは、もともと、レーガンが表明したように、「ガルフの生命線たる航路をイランの支配下におくことも、ソ連の支配下におくことも許してはならない」のであり、ガルフにおける米帝の支配力を維持するのが狙いだからである。それゆえ、あえて、ガルフの緊張を高め、ガルフにおける米軍の軍事存在を強化しようとしているのである。そうすることによって、帝国主義権益の防衛のみならず、米帝の威信回復が可能だと判断しているのだろう。

している。むしろ、米帝レーガン政権は、ソ連の平和攻勢の前に、軍縮にとりくまざるをえない状況にあるものの、地域的には、ソ連の影響力を少しでも削り、進歩的反帝勢力を分断し、個別襲撃を計るべく画策している。

スターク号が、イラク機発射のミサイルを被弾したのは、「まさか一

「その恫喝に対して、イランの側は「もし米国がイランに敵対行動をとれば、米国はとり返しのつかない事態を迎える」と反論している。

今年に入つて、イラン、イラク双方によるタンカー攻撃は、急増している。これは、石油をめぐる経済戦争の要素が大きくなってきたという

のGCCサミットにおいて、戦火拡大阻止政策をとることを決定し、イランとの交渉を行い始めてきている。そして、五月一七日、米帝の意に反して、UAE（アラブ首長国連邦）は、「ガルフでのイランによる攻撃に備えて、外国籍艦隊に防衛されることを拒否する」と表明した。さらに、イランとはホルムズ海峡を隔てて向

ク側から仮製ミサイルをうちこまれ、三七名の死者を出してしまったのである。

このような失態は、やがては、「なぜ、米国が他国の防衛のために犠牲になる必要があるのか?」といふ世論を大きくしていくだろう。レーニン、ワインバーガーは、同盟諸国がそのシェアを担うよう呼びかけた。

は、今後、世界最大の紛争地点でおこりうる衝突に対する重大な前例となるだろう。

国連海軍配備を提案するのは、ガルフ、ホルムズ海峡、そして中東で最重要の油田地域を、超大国の勢力が争いの舞台でなくすることである。これが最重要なのだ。情熱と原理原則が統制をうけつけなくなり、一人歩きしてしまう前に、世界が共同して、争点を冷却させるほうがどれほどベターなことか。

民族統一綱領

一、パレスチナ・レベル

PNC採択文書
アルジエリアでの
パレスチナ解放人

資料③

は、今後、世界最大の紛争地点でおこりうる衝突に対する重大な前例となるだろう。

国連海軍配備を提案するのは、ガルフ、ホルムズ海峡、そして中東で最重要の油田地域を、超大国の勢力争いの舞台でなくすることである。これが最重要なのだ。情熱と原理原則が統制をうけつけなくなり、一人歩きしてしまう前に、世界が共同して、争点を冷却させるほうがどれほどベターなことか。

即ち、パレスチナの地にエルサレムを首都とした独立パレスチナ国を建国すること。また、PLOの政治綱領を遵守する。このPLO政治綱領とは前出の権利を実現するためのものである。

2 パレスチナ人の唯一合法の代表として、PLOをみなす。この代表権は、代行、委任、または共有しないし、PLO以外の代表を拒否し、抵抗する。

3 PLOの独自性堅持

4 あらゆる形態（武装・政治・大衆闘争）の闘争堅持

PLOの内部問題への介入、専念を拒否する。

シオニスト的性格を有することの
真の表現である。

5 国連決議二四二は、パレスチナの大義実現にむけた有効な基礎としては、拒否する。この決議は、パレスチナの民族的大義を単なる難民問題に狭め、何人も奪うことのできないパレスチナ人民の民族的権利を無視している。

6 部分的・一方的解決案拒否
また、パレスチナの大義を抹殺せんとするあらゆる陰謀も拒否する。そうした陰謀とは、キャンプ・デービッド合意、レーガン案、自治そして（イスラエル－ヨルダン）共同統治等を含む。

7 アラブ・サミット決議中、パレスチナの大義に関連した決議の堅持。とくに、一九七四年のラバト・サミット決議。パレスチナの大義を解決し、被占領アラブ領土回復を追求するべく、八二年に採択されたフェーズ・プランを、国際レベルでのアラブの行動の土台とみなす。国連監督下、完全な権威を有して開催される国際会議、及びその會議が採択するパレスチナの大義に関連した決議を支持。この会議はアラブ－シオニスト紛争、及びその中心問題たるパレスチナの大義

を扱うために開かれるものである。この会議には、国連安保理常任理事国五ヵ国が参加せねばならない。PLOは、他の参加者と同等かつ完全な資格をもつ独立主体として参加する。なぜなら、アラブ・サミットの諸決議が明言しているように、PLOはパレスチナ人民の唯一合法の代表であるから。国際会議がこの形態をとることを堅持する。

9 被占領地内のすべての民族勢力と機関を、PLO指揮下に統一していき、これをうち固める。そして、敵イスラエル、そしてイスラエルによる人種主義的抑圧政策（植民地主義的入植政策、鉄拳支配政策、自治政策、共同統治、関係正常化、開発計画なるもの等々）に対して闘うために、あらゆる形態の共同を発展させる。

PLOの代替物をでっち上げんとする策動と闘う。その策動とは、市町村議会首長、メンバーの任命を含む。パレスチナ人民が、民族的諸勢力、諸組織、諸機関に代表させている不退転さを支持する。レバノンにおいて、パレスチナ・キャンプ組織化へむけた共同の事業を推進する。キャンプ存在を防

1987年7月31日 第25号 月刊 中東レポート

フでの海軍力拡大を志向している。なぜ国連海軍ではないのだろうか？国連軍は、世界の他の地域では、平和維持任務をうまく果たしているではないか。

米国の海軍機動隊は、ガルフで治安維持にあたってきたが、平和をもたらすよりも、標的になつたということが明らかである。米フリゲート艦「スターク号」をミサイル攻撃し、三七人の死者を出したことで、イラク政府は正式謝罪した。しかし、イランの軍将兵は、米－イランの武器取引暴露で怒っているのである。

多くの点で、「スターク号事件」は、八三年、米海兵隊がレバノンで二〇〇人以上殺された事件の再来を思われる。たった一台のトラックが二〇〇人以上の海兵隊を殺したのだった。ふたたび、一握りの西欧諸国とくんで何とかことを収めようとしたかもしれないが、米国は国連の平和維持軍の可能性を流産させた。

レバノンにおいて、「UNIFIL」を増強してパレスチナに隣接する地域の治安維持を担つてもらうよりも、もしそうないが、米国は国連の平和維持任務をうまく果たしているのではないか。

大使が大雑把な調整を行う委員会を作りはしたもの、自國軍の軍事司令官への権威が保証されていた訳でない分、指揮として成立していないかったのである。国際軍が駐留して数週間もしないうちに、流動の激しい情勢下で、亀裂がすぐにあらわれた彼らは、それを最大限に利用した。加えて、西側諸国の政治的立場も弱かった。自分たちが決定した以外、どの権威を付与されていだらうか？ レバノン政府は、国際軍駐留を承認はしたものの、国際的な承認はなかつた。西側諸国は、何と反応しただらうか？ もしも、ソ連が独創することになつた。火力に訴えるとなつたら、これはもう足の腱を切って歩けなくなるに等しかつたのが、米国は、無防備のレバノンの村開することになつた。

隊員が殺されたとき、やっと、レーベン大統領も、手のうちようがないということを悟った。これは、当然だろう。米国は撤退し、英・伊両国も、米国に続いた。仏は、目立たない役割を果たすだけに止めた。

ガルフは、重大な国際的海路（シーレーン）であり、現在、世界中の多くの地域へとつながる海運が戦火にまきこまれている（主にタンカーだが）。攻撃されているのは西側の船舶だけではなく、ソ連、インド、日本、韓国の船舶も被害をうけている。八七年度、すでに三〇〇隻以上が攻撃をうけた。

これに対しても、ソ連の側は、米国との共同パトロールを提案したが、米国は一蹴した。国連安保理に問題をあげ、ガルフの航行自由の必要性で一致し、海運国が国連旗をかかげた共同の艦隊を設置し、国連の統一指揮で動くというふうなやり方が良かつたであろう。さらに、超大国海軍は、ややもすると反感を招くから、ガルフから出て行つてもらうほうがより良い。

インド、パキスタン、ユーロースラビア、カナダ等、海軍を持つてゐるし、國連軍として動くよう打診してみたら良いだろう。何と、いつても、國連軍の強みは、レバノン、キプロス、カシミール、ゴラン高原、コンゴ等、各紛争地域での経験がある分、調整した配備、それのみあう無線周波数、將兵の規律、指揮体系の統一化にすぐれているのである。加えて、平和維持の倫理、挑発されてもすぐ撃ち返さない自己規制、敵対勢力間の調停力にもまさつてゐるし、戦闘がある地区で勃発したら政治権力に訴えて即戦火を收めるための方法も多様に備えている。確かに國連海軍といふのは過去なかつたが、國連陸軍よりも危険だというものでもないだろう。確かに、各国の船舶は、自国の船の乗組員に対する主権を保持するだろう。しかし、伝統的な國連陸軍の各部隊も、各国の部隊指揮下に留まつて國連軍として展開してこれた。

國連論争に対して、ガルフでの平和を完全に維持することを望んでいるのではない。少なくとも、現状の緩和はやつてほしいのである。國連海軍が存在するとなつたら、交戦相手でもない国へ戦火を拡大するのが今よりは困難になるだろう。さうこ

で、合意の理解の仕方と実践の仕方の二つの側面での相違が生じた。これは、米国等、他の勢力の圧力下で、さらに拡大していった。こうした深まる相違から、八六年二月一九日、ヨルダンはPLOとの連携を中止し、別な方法をとることを決定した。それで、この合意は凍結され、両者の関係は行きづまり、中断という事態を招いた。

PLO執行委員会は、ヨルダン・パレスチナ両人民の兄弟的な特別な関係に関するPNC諸決議実践を行いたいと考えている。が、この合意が両人民関係発展の障害物になつて、合意が本当に有効でないという現実からも、執行委員会は、この合意が無効であるとみなす。

同時に、執行委員会は、自らの政策に沿って、ヨルダンとの、そして、他のアラブ諸国との事業について新しい土台を捲しだす努力を続けるであろう。それは、パレスチナ及び他のアラブの土地を解放し、アラブの統一をかちとるためのアラブの団結にとって有効なアラブの團結、そして足並みのそろったアラブの行動を、力に、共同闘争を展開しうるようになるためなのである。こうした努力

スをパレスチナ人にかちとることもできよう。

政治運動が何一つない所なのに、相かわらず何もしないで待つだけという訳にはいかないではないか。東エルサレムの主権問題とはまったく関係なく、占領下の日々の生活を行うするのかというレベルの問題の解決方法の一つとして考えたほうが良い。

A、イスラエル

エルサレム市長選出馬の意思はない。しかし、将来、イスラエルの政治過程にパレスチナ人がより大規模に参加していく可能性を排除しない。

△反応△

イ、市長コリック

"アラブ人にとって役に立つだろう。が、市議会を(パレスチナ人対イスラエルの)政治対立の場にはしないでほしい"

ロ、市長のスポーツマン

"なかなか興味をひかれる提案だが、果たして実現するかどうか?過去のあらゆる選挙では、ヨルダン及びアラブ諸国は、投票即ちイスラエル政府の承認になるから棄権するようにと、パレスチナ人にアピールしたものだ"

ハ、右翼タヒヤ(復古)党のコーへ

は、国際会議で解決を計ろうというのである。この国際会議とは、ソ連・米国及び他の国連安全保障理事会常任理事国、PLOを含む紛争当事者が参加するものである。PLOは、主體と同等の資格をもつて参加していく。

PNC決議――

対エジプト関係

敵シオニストに対峙するアラブの闘争においてエジプト、及びエジプト人民が果たしてきた歴史的な役割、パレスチナ人民とパレスチナ人民の民族的権利のためにエジプト人民が払ってきた犠牲、アラブの統一を前進させ、反帝・反シオニズム解放闘争のためにエジプト人民が果たしてきた役割をPNCは、再確認する。さらに、エジプトが有する国際的な声、そして、アラブ世界でエジプトが果たすべき自然な役割にもどることの重要性を承認する。

したがって、パレスチナ・エジプト関係の土台を明確にする作業を、PLO執行委員会に託す。その関係は、PNC決議、とくに第一六回PNCにのつとつたものでなくてはならない。

B、パレスチナ人

ン国会議員

"その国の主権を承認せずと主張しながら行政に参加するという話は、聞いたこともない"

ニ、イスラエル共産党リーダーのウイルナー

"パレスチナ人を裏切る行為だ"

(i) パレスチナ記者組合組合長

"我々が主権を有しない都市の行政を担当することは、不可能。絶対反対"

(ii) ビール・ゼイト大哲学教授ヌセイバ

"パレスチナ人の利益をまず念頭においたうえで、十分検討せねばならない。討議に付されるべき考えではあるが、こうしていきなり持ち出すには、時期尚早。まず、パレスチナ人内での総意が計られるべき"

(iii) アル・ファジル紙記者クツタブ氏

"これは、東エルサレム市議会の自動的解散につながる。しかも、パレスチナ人が親PLOの政治内容で立候補したら、イスラエルが許すものか"

*八〇年の「併合」時点では、東エルサレム市議会は解散させられた。しかし、多くのアラブ国は、東エルサレムのパレスチナ人を代表する唯一の合法的代表機関とみなしている。ヨルダンが今年の八月に「総選挙」を行うといふのは、この東エルサレム市議会を認めないとということである。

(v) ヘブロン市長ナチエ

"そんなことしないようと、忠告した"

(vi) 非暴力研究パレスチナ・センターのアワド

"支持"

米公式支持表明した唯一の人。

(v) ヘブロン市長ナチエ

"そんなことしないようと、忠告した"

(i) PLO

"エルサレムは将来のパレスチナ国首都と規定したPNC決議、アラブ・サミット決議を勝手に変更している。また、立候補自身、イスラエルの手先になり下がることでしかない。東エルサレムのパレスチナ人同胞に、

八八年度市議会選ボイコットを

イスラエル中央銀行総裁は、記者

(米国からの援助に大きく依存)(軍事輸出額推計は一一億ドル)

は、国際会議で解決を計ろうというので、何よりもまず、祖国帰還権、のである。この国際会議とは、ソ連・米国及び他の国連安全保障理事会常任理事国、PLOを含む紛争当事国が参加するものである。PLOは、主體と同等の資格をもつて参加していき。

アラブ・サミット決議に立脚したものである。この国際会議とは、ソ連・米国及び他の国連安全保障理事会常任理事国、PLOを含む紛争当事国が参加するものである。PLOは、主體と同等の資格をもつて参加していき。

アラブ・サミット諸決議が確認するとところの何人も奪うことのできないパレスチナ人の民族的諸権利を実現するというパレスチナ人民の目標に関連し、また、その目標に従うようなアラブ・サミット諸決議に立脚したものでなければならない。

ト人民が果たしてきた歴史的な役割、パレスチナ人民とパレスチナ人民の民族的権利のためにエジプト人民が払ってきた犠牲、アラブの統一を前進させ、反帝・反シオニズム解放闘争のためにエジプト人民が果たしてきた役割をPNCは、再確認する。さらに、エジプトが有する国際的な声、そして、アラブ世界でエジプトが果たすべき自然な役割にもどることの重要性を承認する。

したがって、パレスチナ・エジプト関係の土台を明確にする作業を、PLO執行委員会に託す。その関係は、PNC決議、とくに第一六回PNCにのつとつたものでなくてはならない。

米五月二一日発表の各特別委員会は、三一議席。は三委員会。うち、軍事委員会――アラファート、政治委員会――カドゥミ、アラブ・国際関係委員会モハムード・アッバスの三人がファタハ。人民戦線は復員人員委員会、民主戦線は情宣委員会、パレスチナ共産党は社会問題委員会、アラブ解放戦線(イラク系)は人民組織委員会、パレスチナ解放戦線は無任。

エルサレム市議会は、三一議席。市長はコレックで、エルサレムのユダヤ化を推進。東エルサレムには、現在約一五万人のパレスチナ人が住んでいる。

エルサレム市議会は、三一議席。市長はコレックで、エルサレムのユダヤ化を推進。東エルサレムには、パレスチナ人票が六万五千票ある。七議席はとれるとみなししている。ヨルダンが今年の八月に「総選挙」を行うといふのは、この東エルサレム市議会を認めないとということである。

東エルサレムには、パレスチナ人票が六万五千票ある。七議席はとれるとみなししている。ヨルダンが今年の八月に「総選挙」を行うといふのは、この東エルサレム市議会を認めないとということである。

東エルサレムには、パレスチナ人票が六万五千票ある。七議席はとれるとみなししている。ヨルダンが今年の八月に「総選挙」を行うといふのは、この東エルサレム市議会を認めないとということである。

資料④

ハンナ・シニオラ氏のエルサレム市議会選舉出馬提案と反応 一九八七年六月四日

なかつたとされる)二月一日来、初めて。

五月一日(月)

・南部レジスタンス
イスラエル、スーール近くのラシャーレバノン

・ディエ・キャンプを艦砲射撃。イスラエル機は、ベイルート上空を威嚇偵察飛行。「SLA」も、南部諸村を砲撃。

・再建
東西ベイルート通過点三番目がオーブジ。

①東西ベイルート通過点三番目がオーブジ。
②L.F.定例司令評議会後のジャジャ声明(主旨)

③第一回PNCは、パレスチナ人がレバノンで戦争を始めていく危険性を示した。

④ジエマイエルしシャムーンと会談。

⑤ALF定例司令評議会後、再建

⑥U.S.A.E.元首、マーフィーと会談。

⑦U.S.A.E.元首は、曰く。

⑧U.S.A.E.元首は、日く。

⑨U.S.A.E.元首は、日く。

⑩U.S.A.E.元首は、日く。

⑪U.S.A.E.元首は、日く。

⑫U.S.A.E.元首は、日く。

⑬U.S.A.E.元首は、日く。

⑭U.S.A.E.元首は、日く。

⑮U.S.A.E.元首は、日く。

⑯U.S.A.E.元首は、日く。

⑰U.S.A.E.元首は、日く。

⑱U.S.A.E.元首は、日く。

⑲U.S.A.E.元首は、日く。

⑳U.S.A.E.元首は、日く。

㉑U.S.A.E.元首は、日く。

㉒U.S.A.E.元首は、日く。

㉓U.S.A.E.元首は、日く。

㉔U.S.A.E.元首は、日く。

㉕U.S.A.E.元首は、日く。

㉖ガルフ戦争
㉗マーフィー、サウジ入り。

㉘イラク、三ヶ月ぶりに、イランの経済施設(イスファハン、ダブリ

・マーフィー、バグダッドでフェイシ大統領にレーガン親書を。「この重要な地域での自由航行保証のためなら、いかなる措置をもとる」と記者会見で語る。この後、U.S.A.E.へ。

①ガルフ戦争終結問題

②アラブー米国関係の現状

③パレスチナ問題の解決

U.S.A.E.元首は、日く。

④ガルフ戦争終結問題

⑤中東の友人との関係を保ちたいのなら、米国の中東政策変更すべき

U.S.A.E.元首は、日く。

⑥U.S.A.E.元首は、日く。

⑦U.S.A.E.元首は、日く。

⑧U.S.A.E.元首は、日く。

⑨U.S.A.E.元首は、日く。

⑩U.S.A.E.元首は、日く。

・再建
⑪ペイルート空港に、ロケット砲四発撃ちこまる。

⑫イスラエル

・国際会議

⑬イ閣議で、シュルツ書簡を検討。

⑭ペレス国際会議案の閣議検討は一

三日にもちこし。

⑮訪問中のベルギー外相とシャミル、

⑯シリア

⑰エジプト

⑱アラブ連盟)代表団、訪中。

⑲五月一二日(火)

⑳五月一四日(木)

㉑五月一五日(金)

・再建
②責任は、主要に米国にあり

③U.S.A.E.元首は、日く。

④ガルフ戦争終結問題

⑤アラブ連盟)代表団、訪中。

⑥五月一二日(火)

⑦五月一四日(木)

⑧五月一五日(金)

・マーフィー、本日、クウェート入り。到着数時間前に爆弾。また、

⑨U.S.A.E.でイラク代表と接触したと

の噂を否定。

⑩U.S.A.E.でイラク代表と接觸したと

の噂を否定。

⑪U.S.A.E.でイラク代表と接觸したと

の噂を否定。

⑫U.S.A.E.でイラク代表と接觸したと

の噂を否定。

⑬U.S.A.E.でイラク代表と接觸したと

の噂を否定。

⑭U.S.A.E.でイラク代表と接觸したと

の噂を否定。

・西岸・ガザ支配政策

新参謀総長(エンテベ作戦の司令官)曰く、「PNCで過激派が主導権を握り、領内レジスタンスが激化しているとはいえ、私兵で対応するのは良くない。法と秩序の維持は、軍と警察の管轄(右翼グリシェ・エモニム批判)」

・ガルフ戦争

・マーフィー、本日、クウェート入り。到着数時間前に爆弾。また、

①反シリア・キャンペーン

・再建
②西ベイルートで爆弾。

③イスラエル

・人質問題

④反シリア・キャンペーン

・再建
⑤アン・ナハール紙に、米人教授四人のVTRが届く。そのVTRで、

⑥信管をぬこうとした警官一名が負傷。シリア軍検問所に、ダイナマイト。二月二二日のシリア軍進駐

・クウェートとの道路建設事業に調印。

・ガルフ戦

・被占領地支配

①マーフィー、バーレーン入り。そ

の後、イスラエルへ。

②U.S.A.E.でイラク代表と接觸したと

の噂を否定。

③U.S.A.E.でイラク代表と接觸したと

の噂を否定。

④U.S.A.E.でイラク代表と接觸したと

の噂を否定。

⑤U.S.A.E.でイラク代表と接觸したと

の噂を否定。

⑥U.S.A.E.でイラク代表と接觸したと

の噂を否定。

・情報相

・クーエードー未遂計画

・情報相

・クーエードー未遂計画

・ガルフ戦

-16-

ペレスが会談。同外相は、西岸代表のパレスチナ人一人とも会見。同外相は、「エジプト、ヨルダン、サウジアラビアは、PLOぬきの国際会議に同意する」ことを示唆。

・外相、アサド書簡を携え、イラン入り。

・ガルフ戦争におけるイラン支持再確認したとされる。

・リビア外務次官、カダフィ親書を携え、ダマスカス入り。

・ヨルダン

・再建
①反シリア・キャンペーン
西ベイルートでシリア軍を狙った一〇〇キロ爆弾。死者一名、負傷八名(うち、シリア兵三名)。

・開けようとするも、狙撃激しく見送り。

・M.E.A.(レバノン航空)会長曰く、「ここを開けたら、保険会社の超過料金をとり下げさせることができよう」

・PLO(シリア部隊、アマル対ドルーズの衝突地点(ティロ三角地帯)に展開。同時に、ベイルート南部のハジッラー地区に入る戦略地点でもある。

・ガルフ戦争
第一回PLO執行委員会(チュニス)議案否決したのを歓迎。アラブ・レベルでのPLO支持が高まる。

・PLO
2、とくに、米、イスラエル、ヨル

・定(代理大使レバールの関係の維持)革命評議会派(アブ・ニダル派)のダマスカス事務所、レバノンにおけるシリア統轄下の同派訓練所閉鎖を要求しているとされる。

・ガルフ戦争
①「イラン・ゲート」調査委員会
②在米イラン政府資産(三七億ドル)中、約四・五億ドルを支払う。ハーベイ・ラード

・クーエードーへの関与否定(ニカラグア反政権勢力への資金援助をしていた)。

・クーエードーの道路建設事業に調印。

・U.S.A.E.でイラク代表と接觸したと

の噂を否定。

・反シリア・キャンペーン

・再建
①反シリア・キャンペーン

・反シリア・キャンペーン

・情報相

・クーエードー未遂計画

・情報相

・クーエードー未遂計画

・ガルフ戦

-17-

五月一六日(土)

・対米関係

米国務省スポークスマンが「駐ダマスカス大使帰任は、シリアが

対テロ援助中止したとの確証があつたら」と発言したのに反論「両

国関係冷却化の責任は、米側にある」と国営放送。

ソ連

・国際会議

クウェートのアル・カバース紙(仏情報として)、「アサド大統領の筋」訪ソ時、シリアの出席しない国際

会議にはソ連も参加せずとの確約をゴルバチフが与えた

イスラエル

・国際会議

①ペレスーシュルツ会談(明日も)。ペレス曰く「エジプト、ヨルダン、シリアはPLO参加を望んでない」

②シャミル

「ペレスの発言は、イスラエル政

府の公式見解ではない」一五日に

は、シャミル特使がシュルツと会

談し、国際会議支持とり下げるよ

う説得。

ガルフ戦

①米帝

②レーガン、ガルフ配備米艦に警戒態勢指揮「敵意を示すパター

ンで米艦に接近する機、及び飛行意図を適正に伝えてこない機

に対しては、イラン、イラク国籍問わず発砲せよ」

③日帝

今年二月、五月と二回、日本船が攻撃されたことから、「国連総長に対し、ガルフ戦終結に、国連総長としての影響力発揮」を倉成が要請。

④イラク

フセイン大統領、レーガンに親書で謝罪。

⑤攻撃は意図したものではなく、この件で両国関係が悪化せぬことを望む。

⑥南部レジスタンス

イスラエル機、サイダ上空へ領空侵犯し、サイダに模擬爆撃。昨夜の「SLA」攻撃への報復。

⑦エジプト

米帝がPLOにもっと位置を与えよう、PLOの役割について検討しているとのこと。

⑧PLO

・フィリピン政府に対して、PLO

入り。イラン外相と会談し、両国関係改善を討議する。四日間の公

式訪問。

・マーフィー、カイロ訪問。

米帝

ターキ号にエグゼセ・ミサイルを

うちこむ。

⑨米国防省、被害三七名死亡と発表。

⑩駐米イラク大使、米国務省へ個人的に謝罪。

・イラク機が、米ミサイル巡洋艦スレバノン

⑪米国務省、被害三七名死亡と発表。

⑫駐米イラク大使、米国務省へ個人的に謝罪。

・イラク機が、米ミサイル巡洋艦ス

ターキ号にエグゼセ・ミサイルを

うちこむ。

⑬ガルフ戦

・イラク機が、米ミサイル巡洋艦ス

ターキ号にエグゼセ・ミサイルを

うちこむ。

⑭ガルフ戦

・イラク機が、米ミサイル巡洋艦ス

ターキ号にエグゼセ・ミサイルを

うちこむ。

⑮ガルフ戦

・イラク機が、米ミサイル巡洋艦ス

ターキ号にエグゼセ・ミサイルを

うちこむ。

⑯ガルフ戦

・イラク機が、米ミサイル巡洋艦ス

ターキ号にエグゼセ・ミサイルを

うちこむ。

⑰ガルフ戦

・イラク機が、米ミサイル巡洋艦ス

ターキ号にエグゼセ・ミサイルを

うちこむ。

⑱ガルフ戦

・イラク機が、米ミサイル巡洋艦ス

ターキ号にエグゼセ・ミサイルを

うちこむ。

⑲ガルフ戦

・イラク機が、米ミサイル巡洋艦ス

ターキ号にエグゼセ・ミサイルを

ヨルダン内相は「レバノンの統一 支持」を再確認。

・スカラスから帰国。

・ジエマイエル特使(三人)、ダマ

スカラスから帰国。

PLO

・アラファト議長、ワシントン・ボ

N C議長」と会談(シリアは、

ファーフームをPNC議長としている)。

・アラブ連盟

・クレイビ会長、年内アラブ・サミ

ット開催説、うち出す。「今まで

サミットの障害となっていた三点

が克服された、もしくは、されつ

つあるので、年内開催条件ができる

た。すなわちその三点とは、

①PLOの分裂

②八二年のフェズ決議実施

③イラン・イラク戦解決

(四日のアラブ外相会議で、双方

に終戦工作を行うことに全会一致)

④エジプト、ヨルダン、シリアとの

関係改善について討議。

・執行委員会委員のアブド・ラボ、

ヨルダンの総選挙を非難(八月と

されている)。

・本日、執行委員会。

・スターキ号問題

・西ベカールのリタニ街道砲撃。付近の四カ村にヘリ爆撃。

・再建

⑤イスラエル、入院。ジェマイエル

が見舞。

⑥ガルフ戦

・労働党連合内左派、早期総選挙追

求に合意、マパム、市民運動など。

・信任案、否決。

・本日、労働党連合のシヌイ党党首―通信

・国際会議

・PLO

①ペリ、ギリシャ正教代表と、マグドウシェ住民帰還問題につき討議。

・再建

②ペリ、シリア軍情報将校と会談。

・リビア

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

③ペリタゴン筋

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

④ペリ

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

⑤ペリ

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

・再建

・リビア

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

③ペリタゴン筋

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

④ペリ

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

⑤ペリ

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

・再建

・リビア

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

③ペリタゴン筋

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

④ペリ

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

⑤ペリ

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

・再建

・リビア

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

③ペリタゴン筋

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

④ペリ

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

⑤ペリ

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

・再建

・リビア

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

③ペリタゴン筋

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

④ペリ

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

⑤ペリ

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

・再建

・リビア

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

③ペリタゴン筋

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

④ペリ

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

⑤ペリ

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

・再建

・リビア

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

③ペリタゴン筋

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

④ペリ

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

⑤ペリ

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

・再建

・リビア

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

③ペリタゴン筋

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

④ペリ

・ヨルダンが二〇年ぶりの総選挙準備完了したのに對し、七四年のラ

バト決議(PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表と規定)無視を批判。

⑤ペリ

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

・再建

・リビア

・オーストラリアの対リビア断交に報復措置とる。

③ペリタゴン筋

- ・被占領地支配政策
- ・国会では、四月のカルキリア事件以来、そして一昨日の六歳の少年の死体発見を期に、死刑導入等の強硬案が論議されている。これに対し、駐イスラエル大使曰く「行政拘留、国外追放等にも反対。すでに十分強硬なり」
- ・「イラン・ゲート」
- ・キムヒ元外務次官訪米。証人喚問うけるかも知れない。
- 五月二四日（日）
ガルフ戦
- ・クウェートのアラマディ港で昨夜火事。緊急閣議。
- ・ヨルダン国王、サウジ訪問。アラブ和解問題を討議。ヨルダンはシリア・イラク、サウジはアルジエリアーもロッコ関係改善に動いてきた。明日、帰国。
- 五月二五日（月）
レバノン
- ・南部レジスタンス
「セキュリティゾーン」で「SLA」と交戦。
- ・人質問題
西独代表、イランへ交渉に。
パレスチナ勢力
- ・アブ・ムサ派、サイカ、PLF、

- P L O を非難。
- アラファート議長、スーダン訪問。
アルジェリア
- 西サハラ問題
二五〇人の捕虜交換にモロッコと
調印。
- イスラエル
- 反イスラエル・レジスタンス
ガザでイスラエル人タクシー運転
手射殺。アラファート派が責任表明
「モサドのスペイを処刑」
- シン・ベト問題
イスラエル軍のドルーズ将校イサ
ハク・ナースが、シン・ベト（イス
ラエルの F B I に相当）の拷問
調査、自供強要を告発。八四年の
パレスチナ人戦士二名を逮捕後殺
害したスキヤンダルがすんばか
り（罪を認めるのと交換に大統領
恩赦をうけ、職も保障された）。
- シャミル「二人委員会を設置し、
事実究明にあたる」
- 野党「司法当局が調査すべき」、
「反テロ作戦責任者更迭すべき」
- 経済
教育予算カット反対のため、教員
が明日スト。

<p>五月二六日（火）</p> <p>ガルフ戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スターク号問題 米現地調査団、本日イラクへ。パ イロットを直接尋問する。 ソ連 エジプト 移動大使通じて、ゴルバチヨフ親書をアサド大統領へ。
<p>五月二七日（水）</p> <p>ガルフ戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スターク号問題 米現地調査団帰国し、議会へ報告。 「イラク機はスターク号が発した警告を受信していなかった」 ・イラン ギリシャとの経済関係強化にむけ、経済代表団が二四日からアテネ訪問中。 レバノン
<p>五月二七日（水）</p> <p>ガルフ戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スターク号問題 米現地調査団帰国し、議会へ報告。 「イラク機はスターク号が発した警告を受信していなかった」 ・イラン ギリシャとの経済関係強化にむけ、経済代表団が二四日からアテネ訪問中。 レバノン
<p>五月二七日（水）</p> <p>ガルフ戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スターク号問題 米現地調査団帰国し、議会へ報告。 「イラク機はスターク号が発した警告を受信していなかった」 ・イラン ギリシャとの経済関係強化にむけ、経済代表団が二四日からアテネ訪問中。 レバノン
<p>五月二七日（水）</p> <p>ガルフ戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スターク号問題 米現地調査団帰国し、議会へ報告。 「イラク機はスターク号が発した警告を受信していなかった」 ・イラン ギリシャとの経済関係強化にむけ、経済代表団が二四日からアテネ訪問中。 レバノン
<p>五月二九日（金）</p> <p>ガルフ戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スターク号問題 米現地調査団帰国し、議会へ報告。 「イラク機はスターク号が発した警告を受信していなかった」 ・イラン ギリシャとの経済関係強化にむけ、経済代表団が二四日からアテネ訪問中。 レバノン
<p>五月二九日（金）</p> <p>ガルフ戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スターク号問題 米現地調査団帰国し、議会へ報告。 「イラク機はスターク号が発した警告を受信していなかった」 ・イラン ギリシャとの経済関係強化にむけ、経済代表団が二四日からアテネ訪問中。 レバノン
<p>五月二九日（金）</p> <p>ガルフ戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スターク号問題 米現地調査団帰国し、議会へ報告。 「イラク機はスターク号が発した警告を受信していなかった」 ・イラン ギリシャとの経済関係強化にむけ、経済代表団が二四日からアテネ訪問中。 レバノン

(スチナ北部のナハリヤ入植村、軍事空港をロケット砲攻撃した)

(イスラエル国境近くのエイタナ町付近で、「S LA」に待ちぶせ攻撃かけ、一名を殺す。)

(「セキュリティゾーン」内では、イスラエルのパトロール隊をロケット、機関銃で攻撃。)

(これに対し、イスラエルは、サイダ上空侵犯し、威嚇。砲艦でサイダ沖を領海侵犯し、哨戒。「S LA」は、三カ村を砲撃、付近を捜査のうえ、村人數人を拉致。)

(レバノン国連代表、安保理に提訴。"イスラエルの南部攻撃、侵略を止めさせるべき"・再建

(①国会議長、バチカン特使と会見。

(②カラミ首相、四月二三日の閣議決定九項目（不法港閉鎖等）実行を訴えると共に、西ベイルートの治安回復を高く評価。)

(外務次官のシリア訪問時、シリア外相は「最近の接触で、レバノン国民対話の前進があるものと確信する」と語った。)

(西ベイルート市内で五件の爆弾。うち一件は、首相官邸近く。)

(イスラエル「エルサレム・デイ」式典・国際会議一選挙問題)

(1) 労働党長老会、右派のアグダト、イスラエルと選挙問題につき討議。後者が早期選挙に合意する可能性性は少ない。

○ シャミル書簡を諸外国大使館へ発送しなかつた、とする批判に対し、外務次官が反論。「政府の文書なら、外務省が出すのが筋」

・ ポラード・スペイ事件調査

国会情報委員会の調査活動。労働党のエバンが委員長。ラビン、ペレス、シャミルの三人の責任が問われることになる。

米帝

- ・ アフガン問題

訪米中のパキスタン外相とシユルツが会談。

「アフガン戦闘機が越境攻撃してくるのに対し、パキスタン防空システム近代化が必要。とくに A.W.A.C.S. にしぼったわけではないが、と、パキスタン外相が一八日に語る。

ガルフ戦

・ スターケ号問題

訪日したイラン副外相曰く「スターケ号攻撃は、米をガルフ戦に介入させ、イランへの圧力にせんとするイラクの陰謀。イランとして

五月二一日（木）

ガルフから撤退してほしい。ガルフから撤退してほしい。

・イラク－エジプト経済・科学・技術協力合意調印。カイロにて。三億ドル相当の両国間貿易もとりきめた。

・再建 レバノン

カイロ協定破棄、五・一七合意破棄を国会で議決。(編注——二つの協定は、いずれも全面公開されていない)

・左派のよびかけで、政治暗殺抗議のスト(西ベイルート)。

イスラエル

西岸のパレスチナ人攻撃ユダヤ人少年(六歳)が、行方不明になっていたが、死体で発見。

以来、極右の入植者が、パレスチナ人を攻撃、村への焼きうちに出る。

ガルフ戦

・スターク号問題 シリアが、イラク－米共謀説をうち出す。「ガルフにおける米の影響力を強めるためのもの」

・カタール貨物船、イランに攻撃さる。

五月二二日(金)

・ソ連代表団がリビア入り。

イスラエル

・反イスラエル・レジスタンス

(1)北部ジェニンの市長、射たれて重傷。

①パレスチナ人(0人)、大学学費差別に抗議し、スト。国会の進歩的議員も

・反シリリア・キャンペーン

イスラエル軍の増強目立つ。

・南部レジスタンス レバノン

(1)仏語週刊誌、「仏と交渉するため、仏人人質をリビアに売った」という「シリリア軍情報将校の話」を紹介。

(2)トリポリで、シリリア軍検問所に五キロの爆弾。

(3)カイロ協定破棄につき、ムバラク曰く「この決定の背後には、シリリアあり」

・カダフィ大佐が、「輸入規制、経営の合理化、まじめな労働がないと、一九六九年以來建設してきたリビア産業下部構造の崩壊を招く」と警告。

- ・ ガルフ戦
- ・ イラン、イスラム共和党を解散。
- 「現在の状況下では、党の分極化（経済政策をめぐり、自由経済推進派と統制経済支持派で分裂）がますます分派活動を助言するのを防ぐ」ためとされる。
- ・ O A U 議長、サウジへ。三一日にはカイロへ入っていた。明日はチャド紛争調停のため、リビアへ。
- ・ サウジ皇太子、三一日にモロッコ非公式訪問。
- ・ イラン大統領親書携え、イラン副外相、シリア入り。
- 二週間以内にムサビ首相がシリア訪問予定。
- ・ イスラエル
- ・ 國際会議
- ① シヤミル、本日仏外相と会談。「大國ぬきの和平会議」を提案。「ソ

- 南部 各国代表参列。
 - サイダで、レバノン軍情報将校一名誘拐さる。今年、二件め。
- ヨルダン 国際会議
- ムバラクがアンマンへ（一ヶ月以内に二回め）。「国連監督下、国安保理常任理事国、全関連者（ペレスチナ人含む）が参加する」方式を主張。

- ・南部レジスタンス
イスラエル発表「ゲリラを発見し
交戦。三名をせん滅。友軍（「S
LA」含む）には被害なし」
ガルフ戦
・中曾根、ガルフの米海軍力増強支
持。「公海での航行安全保証のた
めの国際協力も必要」

・ クウェートのアル・カバス誌
“サウジアラビアは、今月中にエジプト、ヨルダン、イラク、シリリア、サウジの五ヵ国で、ミニ・サミットを開催したい意向。昨日のフェイントーム・バラク会談で、この問題が話された”

- ・「イヌテム死教者のために復讐する組織」からも犯行声明出される。
- ・南部レジスタンス
- ・パレスチナ勢力が、パレスチナ北部のガリラヤ地方の産業・軍事施設砲撃。

道の参加しないものにありませ
と仮外相。

① I F F / ハシビラードのインラム
・レジスタンス戦線)が再攻勢。
「S L A」ラジオによると「イス
ラエル兵六人負傷。シアア派ゲリ
ラ八人戦死」
これは、「バドル作戦」(モハメ
ドがジハードを展開していく過程
で、戦局を切り石へた歴史的作戦

争海域にいたか否かの論争スター
ト。
イスラエル
・反イスラエル・レジスタンス
六月戦争二十周年前夜。西岸・ガ
ザではスト。

- ヨルダン皇太子、カイローロンドン経て、カナダ訪問。
- ソ連代表団とPLOがチュニスで会談。六月上旬に、カドウミ率いる代表団が訪ソ予定。
- 反イスラエル・レジスタンスガザで三人がゲリラ容疑で逮捕される。
- 経済今まで南アに依存してきた石炭をコロンビアから買いつけることになつた。南アとの関係縮小のジェスチャー。
- 五月三〇日（土）
- ガルフ戦
リッダ闘争十五周年

- ・ クウェート国防相反論。「彼らはエジプト人の漁師。スペイ活動をしていたのではない」
- ・ クウェート、タンカー防衛に関する米下院決議（一隻を米国籍に移籍させ、米海軍が護衛する）をレーベンが支持。
- ・ 南部レジスタンス
- ・ ハジビッラーが二五〇人の部隊で「S L A」を攻撃。イスラエル、「S L A」は反撃し、イスラエルは機甲化部隊をジャジーンまで侵攻させた。
- ・ イスラエル
- ・ 反イスラエル・レジスタンス
- ・ 西岸ナブルス近くのバラタ・キヤ

トにあるレバノン空軍基地から飛びたちは（出発一五分前に機を選定し、飛行一〇分前にパイロットを決定）、ズホルタでラシン内相を乗せ、トリポリへカラミ首相を迎えたもの。爆弾が爆発してから、機は東ベイルートのハラト空港に緊急着陸し、病院へカラミ首相を運ぶも、すでに死んでいた。

（四）トリポリでは、大デモ。西ベイルートも、内戦激化を恐れて、銀行商店が閉店。爆弾数件。

（五）ジエマイエル大統領は、病院へかけつけ、一週間の公式服喪を宣言。シリアも三日間の公式服喪を宣言。イスラエルのシャミルは、「わが政府の（レバノン）政策に影響なし」、ペレスは「シリアの軍事介入も暴力を抑止できないという証

イスラエルを許さないと警告。

- ・反イスラエル・レジスタンスバラタ・キャンプの女性、子供が外出禁止令、イスラエル軍の蛮行に抗議デモ。
- 六月二日（火）
- レバノン全国でスト
- ・カラミ首相暗殺事件
- ① ホス首相代理就任。
- ② フセイニ、イスラム・リーダーの接触を精力的に展開。
- ③ L.F.ジャジャ主犯説流れる。
 - 〃先週ジャジャが四日間イスラエル秘密訪問し、暗殺計画を作つてきた。レバノン空軍関係者以外、ヘリコプターの座席に爆弾をしづけるチャンスがなかつた”といふ根拠から。

（口）「イランとの戦争に入らぬようよびかける議員もいる。」

・スターク号問題
　　レーガン「ガルフに平和が確立され
　　るまで、米海軍はガルフでの展
　　開を止めぬ」と声明。

ンブをローラー作戦。男子村民全員の身体検査を行い、六〇人を逮捕。外出禁止令。

明」とコメント。
⑤L.F.も、暗殺非難声明発表。
「レバノン地下軍」のモハムード・大佐を名のる人物が犯行を声明。

六月五日（金）

六月戦争二十周年

レバノン

・カラミ首相暗殺事件

①フセイニ国会議長、カラミ首相暗殺犯究明の真相が闇に葬られそうなことに抗議して、辞任表明。
②カッダム副大統領、イスラム・リーダーを批判し、「この政治空白を一刻も早くのりきるよう」訴える。

ガルフ戦

①ホーリドハウス

ホルムズ海峡入口にイランが配備したとされるミサイル（七月一日頃から作動可能とされる）の存在が、危険。先制攻撃を考慮中。上院軍隊委員会は、「ミサイル配備が本当なら、うけて立つ態勢」と主張。

②日本帝

サミット後の「三一・一六日、倉成のイラン訪問決定発表。また、でる意向。中曾根曰く「ガルフの安全航行に重大な関心を持っている。日本は、イラン、イラク両国との関係を有する数少ない国なので、役割を果たしたい」

⑥GCC外相会議スタート（定例とされる）。

②クウェート、「外国の軍事基地作

らせない」と発表。また、この間のマ連の爆弾事件裁判で、六人に死刑判決。

エジプト

・レーガンの招待をうけ、ムバラク

が七月に訪米する予定。

六月六日（土）

イスラエルによるレバノン侵略

周年

イスラエル

・テルアビブで、二〇〇〇人の反占領集会。

ガルフ戦

・イラン大統領、朝日と独占記者会見。

六月七日（日）

レバノン

・南部レジスタンス

「セキュリティゾーン」内で地雷攻撃。イスラエル兵一名死亡、二名負傷。

・カラミ首相暗殺事件

①ホス首相代行「暗殺犯を逮捕する

か、さもなくば辞任せよ。フセイニのように」とジェマイエルに要求。

②ジェマイエル反論。「レバノン国

軍を犠牲の羊にしてはならない。軍は、国家の主権、独立、統一の防衛を行うのだから」

④中曾根曰く「ガルフの安全航行問題では、軍事面での協力はできな

いが、他の面で。具体調整は、日空防衛問題を討議。

⑤イラン、テヘランで政府支持、クウェート批判デモ。

⑥バーレーン

米艦護衛用米軍事物資の備蓄開始。

エジプト

・「反政府分子」五〇〇人逮捕。

内相は、「この間の暗殺未遂、事件の背後に、イラン、リビア、シリヤがいる」と、反テロキヤンペーン。

イスラエル

・反イスラエル・レジスタンス

エルサレム近くで、車爆弾未遂。

パレスチナ人一〇人近くが逮捕さる。

・パレスチナ・キャンプ攻撃

西岸へブロン・ベツレヘム間のドヘイシャ・キャンプをヘブロン近くのキリヤト・アルバ一人植村の右翼が襲撃。入植者五人逮捕。

・トーゴと復交

レバノン

・カラミ首相暗殺事件

・ジンブラット、暗殺調査委員会

の報告結果を公表するよう要求

（一日にレバノン空軍の調査結果

が大統領に提出される予定）。

・ジエマイエル、国連安保理常任理事国五カ国代表と会談。

六月九日（火）

イスラエル

・国際会議

ペレス、「国民投票にかけるべき」と主張。举国一致内閣は維持しつつも、国際会議を行うための方法を模索。

・トーゴと復交

①アラブ連盟七国外相会議、ガルフ戦終結にむけ、一二日（金）に会議予定。

②中曾根曰く「ガルフの安全航行問題では、軍事面での協力はできな

いが、他の面で。具体調整は、日空防衛問題を討議。

（ガルフで米軍が戦闘状況に入った場合、日米間の「シーレーン防衛」が発動する——編注）

レバノン

・カラミ首相暗殺事件

・ジンブラット、暗殺調査委員会

の報告結果を公表するよう要求

（一日にレバノン空軍の調査結果

が大統領に提出される予定）。

・ジエマイエル、国連安保理常任理事国五カ国代表と会談。

六月九日（火）

イスラエル

・国際会議

ペレス、「国民投票にかけるべき」と主張。举国一致内閣は維持しつつも、国際会議を行うための方法を模索。

・トーゴと復交



六月八日（月）

ガルフ戦